



関自旅二第894号の3  
令和4年8月30日

一般社団法人全国個人タクシー協会 関東支部長 殿

関東運輸局長

準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況  
の判断結果について

標記について、平成26年1月27日付け公示「準特定地域における一般乗用旅客  
自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に  
基づき別添のとおり公示したので了知されるとともに、傘下会員に対し周知されたい。



公 示

準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の  
判断結果について

平成26年1月27日付け公示「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に基づき、一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の判断結果を下記のとおり公示する。

なお、需給状況の判断結果の算定基礎数値は、別紙のとおりである。

令和4年8月30日

関東運輸局長	新田	慎二
東京運輸支局長	尾崎	行雄
神奈川運輸支局長	尾林	信二
埼玉運輸支局長	久手	俊彦
群馬運輸支局長	鷲巢	雄一
千葉運輸支局長	小松	和則
茨城運輸支局長	古賀	重徳
栃木運輸支局長	古谷野	正久
山梨運輸支局長	加野島	仁

## 記

## 令和4年度における需給状況の判断結果

都 県	営業区域名 (交通圏)	必要車両数 (両)	令和3年度末 車両数 (両)	増加可能車両数 (両)
東 京	特別区・武三	15,387	28,133	▲12,746
	北多摩	762	1,709	▲947
	南多摩	507	1,225	▲718
	西多摩	79	204	▲125
神奈川	京 浜	3,025	6,796	▲3,771
	県 央	918	2,006	▲1,088
	湘 南	180	387	▲207
	小 田 原	184	474	▲290
千 葉	京 葉	617	1,512	▲895
	東 葛	417	1,055	▲638
	千 葉	431	1,214	▲783
	北 総	203	982	▲779
	市 原	120	384	▲264
	南 房	136	371	▲235
埼 玉	県南中央	987	2,432	▲1,445
	県南東部	464	1,243	▲779
	県南西部	559	1,528	▲969
	県 北	162	387	▲225
群 馬	東 毛	114	267	▲153
群馬・埼玉	中・西毛	388	1,013	▲625
茨 城	県 北	151	419	▲268
	水戸県央	262	720	▲458
	県 南	316	815	▲499
	県 西	121	322	▲201
栃 木	宇都宮	263	844	▲581
	県 南	162	414	▲252
	塩 那	71	215	▲144
山 梨	甲 府	187	351	▲164

- ※ 上記「令和3年度末車両数」は、特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法（以下「タクシー特措法」という。）第2条第9項に定める事業用自動車（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーに限る。以下「個人タクシー」という。）を除く。）の数である。
- ※ その他ハイヤー（道路運送法施行規則第4条第8項第3号の規定に基づき国土交通大臣が定める区分を定める告示（平成26年国土交通省告示第59号）第2号に規定するハイヤーをいう。以下同じ。）がある営業区域にあつては、算定した一般タクシー（タクシー特措法第2条第9項に定める事業用自動車からその他ハイヤー及び個人タクシーを除いたもの。以下同じ。）の必要車両数と平成26年1月27日現在の一般タクシーの車両数の乖離率を用いてその他ハイヤーの必要車両数を算定し、これを一般タクシーの必要車両数に加えて算定したものである。

## 附 則

本公示は、令和4年度の準特定地域における法人タクシー（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーを除く。））の新規許可申請、条件解除の承認申請、営業区域の設定に係る事業計画変更認可申請、増車に係る事業計画変更認可申請、休車の解除に係る事業計画変更認可申請及び個人タクシーの新規許可申請について適用する。

## 1. 東京都

## (1) 特別区・武三交通圏

## ① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
515,325,639	563,582,162	0.91

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
15,138	515,325,639	1,628,444,446	0.44	6,965,167	0.90

## ② その他ハイヤー

乖離率 a=(b-c)÷b	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.50	30,310	15,138

必要車両数 d-(d×a)	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
249	499

## (2) 北多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
22,426,225	25,429,148	0.88

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
762	22,426,225	77,379,014	0.49	426,760	0.90

## (3) 南多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
15,821,595	18,028,495	0.88

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
507	15,821,595	57,594,555	0.49	306,647	0.92

## (4) 西多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,479,729	2,846,775	0.87

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
79	2,479,729	9,252,288	0.52	50,196	0.90

2. 神奈川県

(1) 京浜交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
86,424,540	95,990,884	0.90

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
3,008	86,424,540	307,700,259	0.44	1,603,404	0.93

② その他ハイヤー

乖離率 a=(b-c)÷b	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.57	7,024	3,008

必要車両数 d-(d×a)	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
17	40

(2) 県央交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
26,283,441	30,392,305	0.86

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
918	26,283,441	95,874,307	0.50	577,911	0.94

(3) 湘南交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,301,435	5,944,231	0.89

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
180	5,301,435	16,756,585	0.51	96,408	0.90

(4) 小田原交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
4,209,570	4,784,252	0.88

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
184	4,209,570	15,722,480	0.47	107,108	0.90

3. 千葉県

(1) 京葉交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
17,239,134	19,603,184	0.88

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
614	17,239,134	62,064,677	0.49	358,240	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.59	1,506	614

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
3	9

(2) 東葛交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
11,528,849	13,048,527	0.88

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
417	11,528,849	42,133,572	0.49	245,315	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.63	1,118	417

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
0	1

(3) 千葉交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
9,648,257	11,015,393	0.88

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
423	9,648,257	37,028,550	0.44	234,392	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.69	1,343	423

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
8	28

(4)北総交通圏

①一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,139,172	6,163,514	0.83

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
176	5,139,172	25,843,858	0.47	137,727	0.90

②その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.75	711	176

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
27	112

(5)市原交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,368,476	2,676,253	0.88

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
120	2,368,476	8,659,803	0.51	73,706	0.90

(6)南房交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,058,674	3,507,500	0.87

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
136	3,058,674	11,224,236	0.51	84,008	0.90

4. 埼玉県

(1) 県南中央交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
24,550,681	27,941,090	0.88

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
981	24,550,681	87,798,773	0.48	549,830	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 a=(b-c)÷b	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.63	2,616	981

必要車両数 d-(d×a)	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
6	17

(2) 県南東部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
12,068,703	13,610,310	0.89

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
464	12,068,703	41,543,535	0.47	248,927	0.90

(3) 県南西部交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
16,587,245	19,107,149	0.87

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
559	16,587,245	62,577,450	0.50	347,501	0.90

(4) 県北交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,615,832	4,072,889	0.89

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
162	3,615,832	11,564,134	0.52	88,727	0.90

5. 群馬県

東毛交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,694,158	3,011,453	0.89

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
114	2,694,158	8,394,457	0.53	61,898	0.90

6. 群馬県・埼玉県  
中・西毛交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
7,276,542	8,067,570	0.90

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
388	7,276,542	22,411,334	0.51	202,614	0.90

7. 茨城県

(1) 県北交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,734,476	3,081,292	0.89

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
151	2,734,476	9,761,905	0.47	83,662	0.90

(2) 水戸県央交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,146,538	5,555,689	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
262	5,146,538	17,734,594	0.50	147,816	0.90

(3) 県南交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
6,935,185	7,711,525	0.90

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
316	6,935,185	22,544,843	0.49	166,499	0.90

(4) 県西交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,252,665	2,511,216	0.90

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
121	2,252,665	6,929,615	0.52	64,252	0.90

8. 栃木県

(1) 宇都宮交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
6,424,105	7,219,329	0.89

必要車両数 A ÷ (D×E ÷ F) ÷ 365 ÷ G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
263	6,424,105	20,991,336	0.51	145,478	0.90

(2) 県南交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,035,504	3,474,529	0.87

必要車両数 A ÷ (D×E ÷ F) ÷ 365 ÷ G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
162	3,035,504	10,995,611	0.51	97,667	0.90

(3) 塩那交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,644,991	1,855,761	0.89

必要車両数 A ÷ (D×E ÷ F) ÷ 365 ÷ G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
71	1,644,991	5,682,130	0.52	41,818	0.90

9. 山梨県

甲府交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和3年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,281,744	3,609,949	0.91

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
187	3,281,744	10,912,381	0.46	95,308	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。